

あの頃の津山

翁橋（大正末期頃）

写真提供・江見写真館



写真は、藪田川に架かる翁橋を西今町側から宮脇町に向けて写したものです。

明治時代に矢吹正則によって書かれた『津山誌』によると、平安時代に書かれた『五代集歌枕』という書物の中の歌枕（和歌に使われた名所などの言葉）として用いられている言葉「美作国翁川」がこの川の下流のことであるといわれていたことから、この橋は、翁橋と名付けられたそうです。

また、江戸時代には、津山藩主であった森家の家臣・今村九蔵が橋のそばに住んでいたため、別名「九蔵橋」、または、橋の西側の西今町の旧名「茅町」にちなんで「茅橋」とも呼ばれていたようです。この橋は、城下町の西の出入り口として利用され、東詰には西の大番所が置かれていたことから、城の警備上、重要な要所であったことが伺えます。

この写真の翁橋は、大正15年に鉄筋コンクリートで造られたものです。4本の親柱にはアルデコ調の趣向を凝らしたデザインが施され、洋風の造りになっています。現在のものと比べてみると、欄干の上の照明器具は変わってしまっていますが、当時の状態をよく留めていることがわかります。



現在の翁橋周辺の様子

橋の周辺の町並みに目を移すと、建物の形や道の舗装など、どこころが変わっている中で、商店の屋根構えなどに当時の面影を残していることが伺え、当時の様子を伝える貴重な一枚となっています。

このコーナーに掲載する懐かし

津山の写真を募集しています

津山郷土博物館 ☎22・4567



先日、夕食の時、美味しいなあと思いつつながら炊き込みご飯をバクバクと食べていました。食べ終わったあと、家族にこの炊き込みご飯美味しかったなあと言うと、松茸が入ってたからね〜と、普通の炊き込みご飯と、松茸入り炊き込みご飯では食べる前の心の準備が違うよね〜という話。(W)

焦りました。取材先でカメラを使おうとしたら、電源が入りませんでした。前日に、バッテリーを充電していたことを思い出し、急いで市役所に戻り再度取材先へ。何とか開始時間には間に合いましたが、事前準備の大切さを痛感しました。イベントが多いこの季節、気を引き締めて頑張ります。(雨)

先日、人間ドックを受けて、視力がやや低下していることが分かりました。早速、お店で自分に合った眼鏡を作り直して、視界が良好になりました。後は悪化傾向の悪玉コレステロール値を何とかしなければ。よっし、11月・12月合併号を発行したら晩酌を控えて、適度な運動にチャレンジだ！(笑)

今月の表紙

秋だ！祭りだ！

津山まつり

10月18日

城東地区

編集・発行（毎月10日発行）

津山市総合企画部秘書広報室（市役所3階）〒708-8501 岡山県津山市山北520番地

☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152 ✉kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます

<https://www.city.tsuyama.lg.jp/>



津山市ホームページ版

☆秘書広報室のフェイスブックはこちらから
<https://www.facebook.com/city.tsuyama.kouhou>



秘書広報室フェイスブック



広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル(雑誌)にご協力ください